



研修センター通信

【研修医奮闘記】

研修医二年次 川口 智也

Vol. 26

平成27年10月27日
発行：教育研修センター

<今後の予定>

- 27日(全員) 院内感染対策研修会 (インフルエンザ・ノロウイルス)
- 29日(前田) 診療部会議
- 11月2日(全員) 藤枝学術カンファランス
- 4日(全員) 研修医ミーティング 個人面談(～24日)
- 5日(全員) ミニレクチャー(1呼内)
- 5日 医療法25条立入検査

- 6日(全員) 倫理研修(吉野Dr.)
- 9日(全員) 院内感染対策研修会 (インフルエンザ・ノロウイルス)
- 11日(杉山、松永) 臨床研修管理委員会
- 13日(全員) キャンサーボード

※ホスター等で日時を確認してください
※研修医の代表が出席するものは、出席後、全研修医に伝達すること

藤枝市立総合病院

検索

Fifteen minutes at the bedside is better than three hours at the desk. Dr. William Osler

医師臨床研修マッチング結果

12名フルマッチ!!

医師マッチング結果(基幹型)		
順位	大学名	性別
1	東京大学	男
2	東京大学	男
3	東京大学	女
4	浜松医科大学	男
5	東京大学	男
6	浜松医科大学	男
7	東京慈恵会医科大学	男
8	山梨大学	男
9	宮崎大学	男
10	東京大学	男
11	東京大学	女
12	東京慈恵会医科大学	男

H27.10.22現在

「あなたが静岡岡県・藤枝市にある当院を志望された理由を聞かせてください。」それは誰もが予測する問いであり、同時に私が面接試験において最も長い時間を要した質問であった。そこであった。「以前、母校に来てくださった産婦人科の先生が静岡で働かれていますとおっしゃっていました。その先生が当時静岡の医療の現状を語ってくださいました。医療圏の中で公立病院の産婦人科2院が閉鎖の危機にあるとの話でした。今では大柄で優しい先生ということしか記憶がなく、名前は失念してしまいましたが、何と後付け感満載でしょうか。しかしこれは事実である。大学のある東京ではなく、生まれ育ちの地である神戸ではなく、なぜ静岡・藤枝なのか。地方都市にしても長野・諏訪であるとか沖縄であるとか、他にもあるんじゃないか。改めて述べてみると臨床という点では、その答えは2つある。1つ目は糖尿病専門医が人口比で比較的少ないため。そしてもう1つが今回のテーマである。我が愛すべきalma mater、灘中学校の2、3年の頃、1つの興味深い授業コマがあった。ゆとり世代真っ盛りの我々の時代には、それを象徴するが如く「総合学習」なる不思議な科目が指導要領に載るようになった。当校では「土曜講座」という名で物好きな教諭に率いられて能楽鑑賞に行ったり、さすがとも言うべき層の厚いOB陣をお招きして自由な形式で講演を開いて頂いたりしていた。ある回、後に京医に進むこととなるA君が3名の医師をお呼びした。その中で1名の産婦人科医が地方医療の現状、産婦人科の現状を語られていた。その先生が働かれていますのはどうも静岡県であるらしい。静岡県といえば、県庁所在地・静岡市と、幼少期より通ったヤマハの本部を要する浜松市があることくらいしか知らない。しかし彼が語られるのはそんな大都市の話ではないようだ。その地域には4つ公立病院の産婦人科があるものの、1つが閉鎖となりまた別の1つがなくなりそうだとかそういった話であった。講演が終わる頃、彼の携帯電話に1本の電話があった。退室され電話を終えた先生は笑顔で話された。へお産があるので静岡に戻るよ。12年の時が過ぎ、地域医療で産婦人科の石川先生に1週間お世話になった。期間中、帝王切開3件に立ち会うことができた。その中の1回で、灘・鉄門の先輩がヘルプに来てくださるということになった。大柄で慈愛に満ちた笑顔をされるその先生に、思い切っておpe中にお尋ねしてみた。「12年前、静岡で産婦人科をされていた大先輩の先生が母校に講演しに来てくださいました。どの地域のこは失念してしまいましたが、私を静岡と縁付けて下さった先生なので、もちろんその場にいた方にしか知りえないことである。へよくも10年前のことなんか覚えていてくれたね。手術後、笑顔で彼は自らの病院へ戻られた。」

蓋を開ければ、ガイドライン委員会の副委員長もされていらっしゃる焼津の前田先生であった。石川先生が教えて下さったが、別の当直医がいらっしやっても、深夜のca11が会議で東京滞在中であっても、そこからタクシーで静岡まで戻って来られるそう。患者に責任を持つということはどういうことなのだろう。12年、これまでの人生の約半分にもあたる期間、結果的に導いて下さったにも関わらずそう認知できていなくなったが、患者と向き合っていたらこういふ感動的な再開にも恵まれるのだろうか。そしてまだ医学部も志していなかった中学生が今や2年目研修医となっている。0sler氏は患者と向き合う15分で3時間の座学以上のことを身に付けられるとのたもうたが、12年基礎・臨床につき込めばどんな発見があるのだろうか。

茨の道のりだが今回の経験は大きな支えになる。ありがとう静岡・藤枝。



灘中学・灘高校ホームページより

個人面談(秋期)を実施します。

11月より教育研修センター所長、室長による個人面談を行います。対象は研修医全員です。

将来のキャリアプラン、研修生活で困っていることなどを相談してください。また、研修に対する要望や改善事項など率直な意見を寄せください。可能なことから改善に努め、今後の研修に活かしていきたいと思えます。また基幹一年次の先生方は、面談時に来年度のローテーション希望の説明を行います。

